

施策評価シート (評価対象年度：令和元年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 幹線道路の整備	② 施策番号	5104
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	2 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 道路の整備		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
都市整備部	道路課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	道路利用者・幹線道路
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	ネットワークの形成が図られるよう市域内の幹線道路の整備を行う。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	道路整備は、社会基盤を支える根幹となる事業であり、市民ニーズや社会環境を的確に捉え事業を推進していく事が市の発展として望まれている。定められた諸基準を遵守した計画をたてる事により、国費の補助対象事業としての認可を受ける事ができ、今後も継続されるものである。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 投入事業費ベース整備状況(信樟) 計算式: 投資済額/認可区間総事業費	千円	総事業費を推し量れると共に完成までの年度予算管理が行える。
② 投入事業費ベース整備状況(砂椋) 計算式: 投資済額/認可区間総事業費	千円	総事業費を推し量れると共に完成までの年度予算管理が行える。
③ 投入事業費ベース整備状況(和泉砂川) 計算式: 投資済額/認可区間総事業費	千円	総事業費を推し量れると共に完成までの年度予算管理が行える。

指標名	単位	H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
① 投入事業費ベース整備状況(信樟)	千円	目標値	6,837,775	6,837,775	6,837,775	6,837,775	6,837,775
		実績値	6,515,002	6,515,002	6,539,223	6,540,873	—
		達成率	95.3%	95.3%	95.6%	95.7%	
② 投入事業費ベース整備状況(砂椋)	千円	目標値	4,310,000	4,310,000	4,310,000	4,310,000	4,310,000
		実績値	3,303,942	3,385,714	3,421,434	3,490,037	—
		達成率	76.7%	78.6%	79.4%	81.0%	
③ 投入事業費ベース整備状況(和泉砂川)	千円	目標値	364,000	364,000	364,000	364,000	364,000
		実績値	131,909	156,775	221,654	369,801	—
		達成率	36.2%	43.1%	60.9%	101.6%	

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化		
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価		今後の方向性	
1	信達樽井線改良事業	事業費ベース整備率	%	95	95	95	1,749	26,149	3,578	B	イ	b	○
2	砂川椋井線新設事業	事業費ベース整備率	%	80	81	83	85,420	39,962	72,845	A	ア		◎
3	和泉砂川駅周辺整備事業	事業費ベース整備率	%	43	61	80	30,054	71,974	155,242	A	ア		◎
4													
5													
6													
7													
8													
計	3						117,223	138,085	231,665				

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	市内幹線道路の整備は、ネットワークの形成を図り地域間の連絡強化となる道路を整備することとなる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	事業が着実に進捗している。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	地域の発展に寄与すべく、社会基盤を支える根幹となる事業であり、市民協力を得ながら官で整備すべきものであると考える。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	道路事業の他、事業進捗の為の関係機関との相互調整や知識・情報の習得を図れる構成となっており適正と考える。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	どちらも重点を置き完成を目指す事業であるが、信濃については一定整備が完了し成果が出ている事業である為、コスト削減に努めながら、砂塚の開通に重点を置き成果の向上を図りたい。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	用地買収等、地権者とのスムーズな交渉と事業予算の確保。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	関係機関との緻密な協議を進める。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	関係者の意向への適切な対応。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	予算の確保。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	幹線道路整備における主要事業は適切に取組が実施されている。 国庫補助金等の財源の確保に努め、計画的に事業実施を進められたい。	